

医学図書館ニュース

No.620 2025 October

Special Essay

医学史から知る先人の苦悩を未来につなげる



児島将康名誉教授



クラリベイト引用栄誉賞受賞！！

10月・11月の休館情報

10/20～26はオープンアクセスウィーク

開館カレンダー

10月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8:30-22:00

10:00-20:00

休館日

医学史から知る先人の苦悩を未来につなげる

外科学講座小児外科部門 加治 建

私が医学を学び始めた医学生の頃を思い返すと、医学を学ぶ楽しさよりも試験に通ることが最も重要な課題であり、なんとか一夜漬けで大量の医学知識を詰め込んで試験をパスするという綱渡りの 6 年間であったように思う。この姿勢は、現医学生において特に顕著であり、時間をかけずに正解を記憶するというコスパ重視の学習方法がさらに加速しているという印象を受ける。

しかし、臨床医となって 30 年以上が過ぎ、臨床現場が長くなるにつれて「なぜ・どうして？」を考える機会が増えるようになった。そして、経験より科学的根拠に基づいた“evidence-based medicine (EBM)”の重要性が認識されるようになり、加えて、科学のめざましい進歩により新しい治療法が次々に開発されるようになった。しかし、現代の医学はこれまでの歴史の上に積み上げられており、医学の歴史を学ぶことは、今後の医療を考えていく上で極めて重要なヒントを与えてくれると感じ、医学史に興味を持つようになった。

自分は栄養・代謝を専門としてきたことから、代謝・栄養に関する歴史を知りたいと思うようになった。なかでも、吉村 昭の『白い航跡』は、明治時代の海軍軍医である高木兼寛（たかき かねひろ）の生涯を描いており、自分の前任地である鹿児島大学とも深い関わりがあり興味深いものであった。

主人公の高木は宮崎県、日向（当時は薩摩藩日向国）に生まれた大工の息子であったが、封建的な身分制度を乗り越えて鹿児島医学校で医学を学んだ。薩摩藩軍医として戊辰戦争に従軍し、西洋医学の有効性に衝撃を受けた。海軍に入隊後、イギリスへ留学、臨床医学を修得し、帰国した。当時、日本軍では脚がむくみ、しびれを認め、重症例では心臓に障害を起こして死亡にいたる“脚気”が原因不明の病気として大きな問題となっていた。高木は食生活による栄養不足説を唱えて、白米中心だった食生活から麦飯を導入することで発症者を減少させることができた。一方、陸軍では、ドイツ医学を重視した学派が細菌感染説を唱えて、白米食を続けたため、脚気による死者は減少しなかった。この時の陸軍医は、東京大学出身の森林太郎（鷗外）であった。後に、脚気の原因はビタミン B1 欠乏であることが明らかとなり、高木は『ビタミンの父』と言われるようになった。高木は『病気を診ずして病人を見よ』を建学の精神として、慈恵医科大学を創設し、近代医学教育の礎を築いた。久留米大学の建学の精神である『国手の矜持は常に仁なり』に通ずるものがある。

本作品は上・下 2 巻であるが、テンポよく話が進み、読みやすく、医学の進歩と明治時代を背景とした制度の壁、そして人命を守るために闘った一人の医師の信念と情熱を描いた歴史小説であり、ぜひ一度読んでもらいたい。

「白い航跡(上・下)」(吉村昭 著)は、
医学図書館 2F で借りることができます。



児島将康名誉教授がクラリベイト引用栄誉賞を受賞！！



クラリベイト引用栄誉賞は、世界最大級のオンライン学術データベースを提供するクラリベイト社により選出される賞で、論文が引用された回数のほか、研究への貢献度や他賞の受賞歴などを総合的に分析して授与されます。

今回、児島名誉教授は、寒川賢治氏
(元国立循環器病研究センター理事)とともに

「食欲、エネルギー、代謝を調節するホルモンであるグレリンの発見」(“for discovery of ghrelin, a hormone regulating appetite, energy, and metabolism”)を理由として選出されました。

ノーベル賞への登竜門としても
注目される賞です！



この研究成果は糖尿病や肥満の研究に大きな影響を与えるとともに、がん悪液質の治療薬開発にもつながっています。

児島名誉教授の研究であるグレリンの発見に関する記事はこちら

グレリンの発見から臨床応用まで:古き良き発見の時代に

Journal of Japanese Biochemical Society 95(1): 5-16 (2023)

→QRコードから記事にアクセスできます。



グレリンの発見についての裏話

日薬理誌(Folia Pharmacol. Jpn.)130, 14~18(2007)

→QRコードから記事にアクセスできます。



医学図書館では、児島名誉教授の受賞を記念した
ミニ企画展示を行っております。
ぜひ手に取ってご覧ください！



児島名誉教授の科研費獲得や
申請に関する著作は版を重ね、
多くの人に読まれています。



10月・11月の休館情報



10月・・13日(月)

11月・・3日(月)、23日(日)、24日(月)



10月20日～26日は国際オープンアクセス週間です

オープンアクセスとは？

研究成果をインターネットを通じて無料で公開し、だれでも自由に閲覧できるようにする取り組みをオープンアクセスといいます。

「国際オープンアクセス週間」

オープンアクセスの促進をはかることを目的として定められているのが「国際オープンアクセス週間」です。(主催:米国 SPARC)

今年は10月20日～26日の期間で、「我々の知識は誰のものなのか？」をテーマに開催されます。

この機会に、ご友人や同僚の方とオープンアクセスについて話題にしてみませんか？

